

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 11月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4670103730
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム笹貫の家
所在地	鹿児島市小松原一丁目1番2号 (電話) 099-268-2627

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成19年10月25日	評価確定日	平成20年1月10日

【情報提供票より】(19年 10月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	9人, 非常勤 8人, 常勤換算 14.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建て	1階	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	- 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	6名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	72歳	最高	103歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野上病院・田上記念病院・西歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通量の多い国道と市電に挟まれた位置にグループホーム笹貫の家はある。外の賑やかさに比べグループホーム内は、穏やかな雰囲気の流れている。管理者・職員は「家族のように利用者が安心して暮らせる」と心掛けてケアサービスを行っている。ふれあい会食への参加・商店街の利用など地域の方々との交流を多く持ち地域密着型サービスに、努力していることが伺えるグループホームである。これからは、地域の方々にはグループホームに訪問していただく機会を多く作り認知症に関する理解がますます広がっていくことを期待します。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者個別の排泄パターンシートを作成して職員の共有化を図った。応急手当について研修マニュアルを作成した。市町村との連携は継続して取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に、自己評価の範囲を分け、ミーティングで話し合い取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	グループホームの近況報告・行事予定を話し、参加を促している。民生委員の方から町内会の行事を紹介してもらい、ふれあい会食の参加・校区運動会の参加など地域の方々との交流が盛んになっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会はないがグループホームの行事の時・面会時・電話等により家族からの意見・相談を伺い、申し送り等で職員と共有して出来るだけ希望に添うケアを心掛けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入り、ふれあい会食・校区運動会等に参加して地域の方々との交流に積極的に勤めている。また、地域の商店を利用して認知症の理解をしてもらい協力を得ている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の想いを大切にして地域・家族と共に支援することを理念に掲げ、民生委員の協力を得て、地域の方々と接する機会を持っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送りが終わったとき、職員で唱和している。ミーティングの時に理念の実践ができているか確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加している。校区の運動会・ふれあい会食に利用者が参加し、地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価の改善に努め改善されている。今回の自己評価は、職員全員で取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回開催され民生委員の協力を得て、ふれあい会食に参加して地域の方々と交流している。町内の予定を教えてください外出する機会が増えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の方のために福祉課への行き来はあるが、グループホームとして高齢者福祉課等の市町村担当者との連携はできていない。		事業所の行事の中に、市町村の担当者の参加を頂き、一緒に質の向上に取り組むことを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話にて家族へ報告し、定期的にホーム便りで暮らしぶりを報告している。金銭管理は、利用者個々の金銭出納簿に記入され、家族に報告時サインを頂いている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はなく、事業所の行事の際にご意見を伺い、職員は意見を申し送り等で共有して、サービスの向上に活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員の入職時には、利用者に紹介して速く馴染んでもらえるように心がけている。経験豊富な職員を指導者・相談役として付き利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。夜勤は2回同伴で施行してから一人勤務に入るようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在新人教育のマニュアルを作成を考えている。研修会に参加した後は、職員間で共有している。全職員平等に研修参加を促しているが、偏っているように見受けられる。		外部研修だけでなく、内部研修を充実させ一年計画をたて実施されることを期待します。プロ意識に目覚めることができる新人教育マニュアルが出来ることを期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームとの交流にとどまっている。		同系列の事業所だけでなく、地域の同業者との勉強会・職員の見学・相互研修会など、サービスの質の向上に取り組むことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族が見学に来られ、後でご本人に何度か見学に来てもらい雰囲気に馴染んでもらうなど柔軟に支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>巻き寿司の作り方・掃除の仕方・花壇づくりなど利用者に教えていただき、得意分野で力を発揮してもらっている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者や家族から意向を聞き、聞いたことは申し送り時に職員に伝え、出来るだけ希望をかなえるようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者を決めて、家族からも意見を聞きミーティングで他の職員の意見やアイデアを取り入れて、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化がなければ六ヶ月に1回見直しをしている。変化が生じた場合は、現状にあった計画を作成している。</p>		<p>利用者が安定していても一ヶ月に1度は確認をされ、現状にあった介護計画であるか振り返る機会にしていくことを望みます。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて病院受診時送迎をしている。腰痛で動けない利用者へ医者への往診に来てもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医を受診している。病院受診の内容を記録に残し、家族に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、高齢者がいるので今後の課題に取り上げているところである。		事業所での重度化や終末期のあり方について、意思確認書の作成や職員が対応できるよう方針を統一することを望みます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングで守秘義務・言葉かけや対応について、よく話し合っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	晩酌を希望すれば可能である。買い物・散歩も希望があれば対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備・後片づけなど利用者の力を発揮してもらっている。寿しの出前・外食など利用して、食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があればいつでも入浴できる。拒む人に対して時間を変えたり一緒に入ったり粘り強く対応して現在は入れるようになった。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事等の時、利用者に挨拶をしてもらったりカラオケで歌ったりダンスを踊ったり利用者への場面作りをして、楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の理美容院に行ったり、ドライブ・買い物・散歩の希望にそって支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある利用者には、職員が対応して一緒に外出したり、近所の方々の協力をいただき鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練を行っている。地震・水害の避難訓練は行っていない。非常食・飲料水等の備品の準備を行っていない。		地震・水害を想定した自主訓練を行い、職員は自信をもって避難誘導できることを期待します。備品の準備をされることを望みます

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士の資格をもっている職員が栄養のバランスを考えて献立を立てている。食事摂取量・水分量のチェックをして個々の対応をしている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者に季節を実感してもらえるように、季節に応じて貼り絵などを利用者と一緒に作り飾っている。居間には、ソファを置き利用者が居心地よく過ごす場所を工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の使い慣れたもの好みのもを揃えた個性のみえる各居室になっている。</p>		

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103730
法人名	有限会社 有星メディカル
事業所名	グループホーム 笹貫の家
訪問調査日	平成 19 年 10 月 25 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会